

# 「いのち」の教育実践事例

## ☆新庄市の実践

(新庄市立明倫中学校)

生徒主体

継続

### — 「いのちを深く考える日」を通じた心の教育 —

教員の自作教材によるいのちに関連した授業を通して、生徒が主体的に「心の集い」を企画し、異学年グループに分かれて、感想等を交流する「いのちを深く考える日」の実践事例です。

#### ○ 「いのちの授業」の実践

- 明倫中学校では、「いのちを深く考える日」を毎年設定し、各教科の教員が「いのち」に関連した授業を行っている。

例えば、1年生の理科の授業では「地震はどのようにして起こるのだろうか。」という問いを通じて「地震が起こる仕組み」を理解する。さらに、「地震の前後で、自分のいのちを守るためにできることは何だろうか。」という問いにより、いのちを守るために安全を確保することの大切さにも気付かせる。

そのような授業が、どの教科においても仕組まれており、生徒にとっていのちについて様々な視点で、また、自分事として考える一日となる。

#### ○ 「心の集い」の実践

- 明倫中学校では「心の集い」を、「いのちを深く考える日」を含めて年3回実施している。生徒会執行部が中心となってそれぞれの集いの企画・運営をしており、平成28年度は、学年の枠を越えた小グループで、共通テーマについて話し合う活動を続けてきた。
- 平成29年1月11日(水)に行われた「いのちを深く考える日」では、いのちに関連する授業を受けた後に、「いのちの学びを語る」をテーマに、全校生徒が話し合うことで、友人、家族、様々な人との関わりや存在について振り返ることができた。

～ある3年生男子から  
後輩へのメッセージ～  
僕は、いのちについてあまり分からなくても、まず、考えてみるということが大事なんだと思えるようになりました。

こんな風に、上級生の思いを後輩につないでいます。

国語の授業を通して、「いのちの尊さ」について考えました。



集会のスタート時に全校生に向け、生徒会長が「心の集い」の趣旨を伝えました。(プロローグ)



合唱を通して全校の思いが一つになりました。



上級生がリードして、「いのち」について活発に話し合いました。

掲示物でも、上級生の思いを全校に伝えています。

